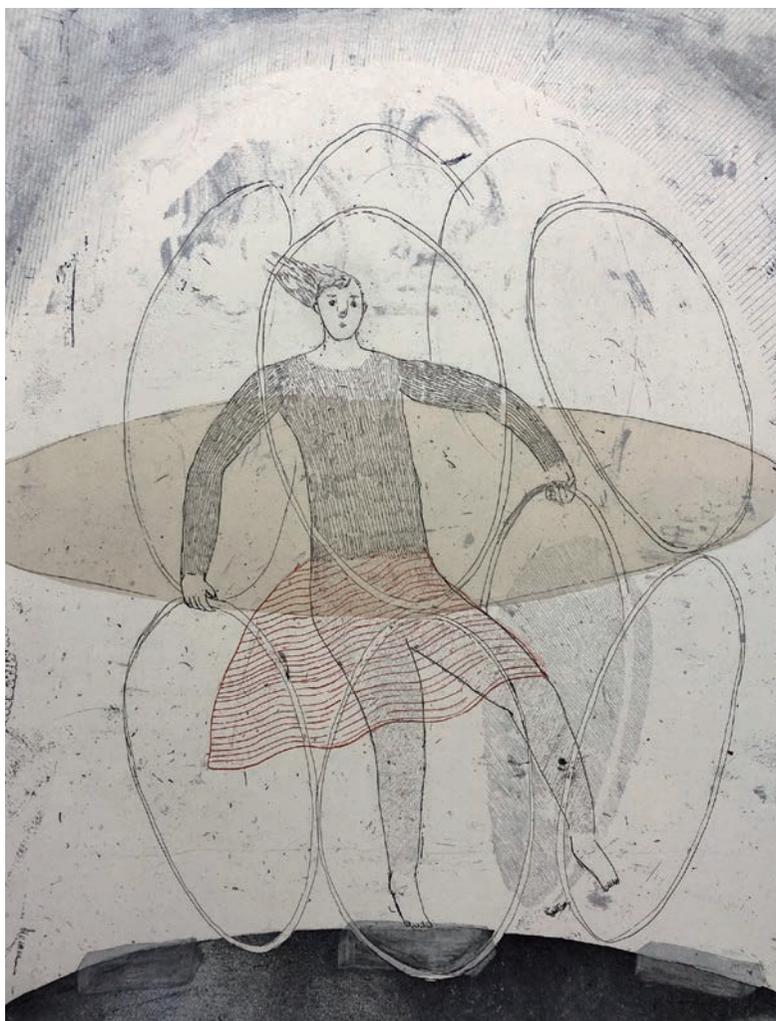


あ ゆ ち
Ayuchi
[No.92/2022.5]



「rolling star」 森田朋さん作

小さくて壮大、コケの世界

道路脇や塀のちよつとした窪みなど、街の片隅で健気に生きていく「コケ」。普段は見向きもされませんが、実は奥が深い!?コケの魅力を苔むす会を運営するコケ愛好家の野田ふみさんと山内喜朗さんに伺いました。「一緒に、未知なるコケの世界を、ちよつと覗いてみませんか。」

コケって、そもそも何者？

陸上に最初にあがった植物!?

コケについて、どのくらいのことを知っているだろうか。「ジメツとした場所に生える日陰者」というくらいで、中には「植物なの?」と思う人もいるかもしれない。

もちろんコケは真正銘、光合成を行う植物である。ではまず、コケについて基

本的な情報を紹介しよう。

コケは、約五億年前に海から陸上へ最初にあがった植物に最も近い特徴をもつ、原始的な陸上植物だ。普通の植物と違い、水や養分を吸い上げる根と、吸い上げた水や養分を茎や葉に運ぶ維管束がコケにはない。そして、花は咲かず、胞子やクローンで仲間を増やす。ここが、原始的と言われる所以だ。

まめ知識

なぜ、「コケ」っていうの？

地面や木の幹から生える毛のような小さな植物ということから、「木毛」「小毛」という漢字が使われ、「コケ」と呼ばれていた。藻類や地衣類、シダ類などすべてが一括りに「コケ」と呼ばれ、明治以降にコケを分類する学問が登場し、現在のよう日本名が誕生した。

がんばらない!乾いたら休むが基本

コケには、仮根(かこん)という器官がある。根と違って、水や養分を吸い上げる力はなく、地面に体を固定するためのものだ。では、どうやって水や養分を吸収しているかというと、体の表面から吸収している。植物の葉は、採り入れた水が蒸発しないように、クチクラという膜のようなもので覆って身を守っている。だが、コケにはそれが

ない。真っ裸な状態だから蒸発し放題だ。だが、雨が降ったときには体全体で一気に入分を吸収することができ、また、植物は体の水分がなくな

ヒノキゴケ



だが、雨が降ったときには体全体で一気に入分を吸収することができ、また、植物は体の水分がなくな

水分が適度にある半日陰が好き!?

すべての種類のコケが、湿った場所が好きかというところ、そうでもない。乾いている所、水浸しになるくらい湿った所、朝露がかかるくらいの所など、コケたちはそれぞれ自分のお気に入りの場所がある。

街中で見かけられるのは、乾いている所が好き、または平気なコケだ。とはいっても、水分は必要。一本だけだと水を蒸

発しやすいため、都会のコケたちは密集して生息。互いに寄り添いながら小さい体を支え合



どれも同じように見えるが、セン(蘚)類、タイ(苔)類、ツノゴケ類の大きく3つのグループに分けられ、世界に約二万八千種類、日本には千八百種類以上が生育。その種類の多さには、驚くばかりである。

では、三つのグループの特徴を簡単に説明しよう。

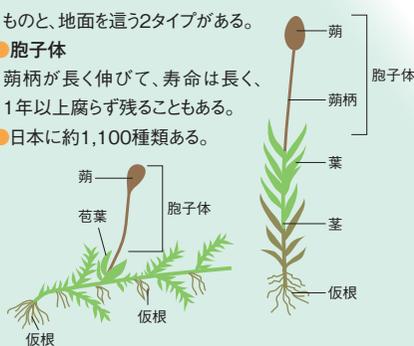


苔愛好家の野田さん(左)と山内さん(右)

種類が最も多く、街中にも多い

セン類

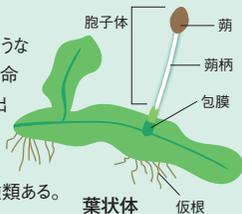
- 特徴
 - ・葉と茎の区別があり、茎が直立するものと、地面を這う2タイプがある。
- 胞子体
 - ・莖柄が長く伸びて、寿命は長く、1年以上腐らず残ることもある。
- 日本に約1,100種類ある。



よく目にするゼニゴケが代表

タイ類

- 特徴
 - ・葉と茎の区別がない平たい葉状体と、茎葉体の2タイプがある。
- 胞子体
 - ・莖はマッチ棒のような長楕円形で、寿命は短く、胞子を放出したらすぐに消えてしまう。
- 日本に約600種類ある。



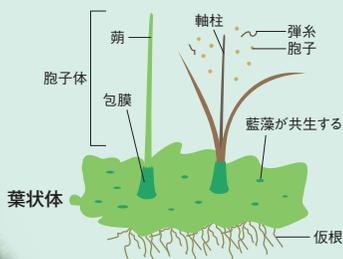
人に嫌われる!?ゼニゴケ。

家の裏庭や路地などのジメジメしたところを生えていて、人を滑らせたりして嫌われたりするの、「ゼニゴケ」ですよ。(野田談)

わからないことが多い

ツノゴケ類

- 特徴
 - ・ゼニゴケの仲間に似た葉状体で、地面に平面的に放射状に広がる。
- 胞子体
 - ・爪楊枝に似た細長い角状の形で、セン類やタイ類のように莖柄はない。
- 日本に約17種類ある。



まめ知識

雨が降ったら、仲間を増やすチャンス!

1つの体に雄株と雌株を持つものもあれば、それぞれに分かれているものもある。雨などが降って葉の表面が濡れている時に、雄株の精子が水滴と一緒に雌株を目指して移動し受精。水が花粉を運ぶ虫たちの役割をしている。

うことで、茎と茎の間に作られる空気の層に雨露などを溜めて分け合い、仲間同士で助け合いながら生きています。だから、意外に過酷な環境にも強い。



オオカサゴケ(セン類)

山と街中のコケの大きな違いは、大きさ。
山には、街のような小さなコケも、ヤシの木みたいな大きなコケもあるけど、大きなコケは街中では見られないですね。(山内さん談)

これが山の中のコケたちとなると、話はずっと違ってくる。山の中には溪流もあり、朝露や夜露もあり、湿潤の環境が整っているの、密集しなくても、一本でも凛と立って生きていける。そのため、形のおもしろいものや、十センチ以上の大きいコケも珍しくない。

森をつくっているのは、コケ!?

人を滑らせたたり、ジメツとしたイメージで無視され嫌われたりするコケ。だが道端や参道脇などが通る整備された場所でも、よく見かける。水の通りがきちんと整備され



ヒノキゴケ(セン類)

ジンガサゴケ(タイ類)



人々を魅了する、様々な形

一見すると、緑の絨毯のようで終わってしまうコケも、じっくり見てみると様々な発見がある。乾燥してクルクル

て、適度な具合で風通しが良いからだ。コケにとってなかなか居心地の良い環境のようで、意外と人の近くが好きだったりもする。そんなコケだが、実は噴火直後の火山岩など植物が育たないような場所に、一番最初に侵入するとも言われている。植物が育たない過酷な状況で、まず植物が育つための土壌をつくるのが、群れて生えるコケだ。



シフネルゴケ(タイ類)

隙間に溜まった細かい砂や埃、枯れたコケなどが腐葉土となって土壌をつくり、そこに木の实が落ちればコケが実を守り、木を育てていく。木が育てば、そこに鳥や小動物が集まってくる。コケは森の母体であり、地球のゆりかごと言われるくらい、実はすごい存在だったのだ。

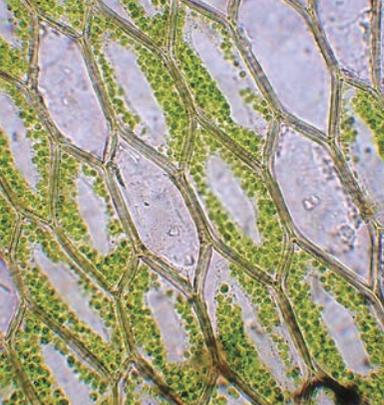
守る帽と呼ばれる部分も、帽子を被っているような感じがかわいらしい。花が咲くわけでもなく、派手さはないが、想像以上にかわいい形や不思議な形に、人々は魅了されるのだから。



乾燥状態

水分あり状態

顕微鏡で見たアブラゴケ



見ようとしなければ、見えない世界

「朝露や雨を浴びた時のコケは、ものすごくキレイ! 葉の先に水滴が丸くしたたる姿は、寶石のようにキラキラしているんですよ」と、野田さん。「ルーペや顕微鏡で見ると、肉眼では見えないコケの世界に触れられ、違う世界を歩き来ているような感じで楽しいです」と、山内さん。



タマゴケの胞子体(約2mm)



アブラゴケ(セン類)

野田さんと山内さんは、コケという小さな世界には、誰も知らないような奥深い世界がギュッと閉じ込められているという見ようとしなければ、決して見ることはできない世界が。だが興味をもつて覗いてみた時、コケ一本一本が木のように見え、まさに森のような世界が広がっている。その美しい世界は、とても貴重なものであり、ちよつと得した気分になれると、コケの魅力を教

ガラスの容器の中に、コケやフィギュアを入れて、自分で好きな世界を自由につくれるのがテラリウム。栽培キットも販売されているので、初心者でも始めやすい。テラリウム以外にもコケ玉やコケ鉢



コヤマノナンネングサ(コケ)&ヒノキゴケ

初めてのコケの楽しみ方

家で楽しむなら「テラリウム」

まめ知識

コケの見分け方は?

コケを見分けるには、抜いてみる! コケは土に這っているような状態なので、引っ張るとスルッと抜ける。根のある植物だと、クッと引っかかる感じで抜くのに力があるので、簡単に抜けたら、それはコケである。

森や山で楽しむなら「観察会」

森や山では、とても多くの種類のコケに出会える。もし出会ったら、ルーペなどで覗いてみよう! 一瞬で、異世界に旅ができること間違いなし。



観察の必需品

- ルーペ(10倍~15倍のもの)
- 霧吹き(乾いたコケに水をかけて変化を楽しむ時用)
- コケ鑑鑑(ハンディサイズのもの。コケの種類をすぐ調べられるように)
- コンパクトデジタルカメラ(接写機能付のもので、コケのアップ写真の撮影用に)

愛知県のおススメスポット

- あいち海上の森(愛知県瀬戸市) 200種類以上のコケが生息し、谷治いなどを丁寧に見ていくと多くのコケに出会える。
- きららの森(愛知県設楽町) コケの三大聖地の一つ、北八ヶ岳で見られる苔をはじめ、愛知県では珍しい種類が多い。

生徒は素晴らしいものを持っていて 得るものがとても多いです。

小島寿文

(愛知県高等学校体育連盟会長
愛知県立明和高等学校校長)



■小島寿文 プロフィール

昭和38年、名古屋市で生まれ東海市で育つ。名古屋大学理学部卒業。数学の教員として常滑北高校、横須賀高校、阿久比高校を歴任し、愛知県教育委員会へ。平成29年度に豊明高校の校長に就任し、平成31年度から再び愛知県教育委員会へ。令和4年度から明和高校の校長、高体連の会長に。コロナ禍での部活動の維持を支え、コロナ感染対策をしっかり行って安全安心な大会開催を目指す。

教員を目指すきっかけは、中学二年生の時に教えていただいた数学の先生です。とても明解な授業で指導は大変厳しかったのですが、生徒から寄せられる信頼は大きくなって、素晴らしい先生でした。その先生に憧れ、「数学の教員もいいな」と思ったのが最初です。

数学の面白さは、自分で考えて答えを導き出せるところ。私は、試行錯誤しながらゴールを見つけていくことが楽しかったです。しかし、一般的にはとつきにくいと言われており、実際に授業をしても生徒に興味をもってもらえるようにするのは、なかなか難しいものがありました。

そうした中で特に印象に残っているのが、新任として初めて授業を受け持った時のこと。クラスに数学が苦手な嫌いな生徒がいると聞き、少しでも楽しさを知ってもらいたいと思って、一年間声を掛け続けたんです。「わかる?」「できる?」などといった些細な言葉を。そして一年後、その生徒が書いた授業の感想には、「数学が大っ嫌いでしたが、普通の嫌いになりました」とあり、「大」が取れていたんです(笑)。うれしくて、まさにこれが教員の魅力であり、醍醐味だと実感しました。

生徒と一緒に過ごせる学校生活は、素晴

らしくて楽しいですね。しかし十年ほど学校を離れて教育委員会に勤めていた時は、なかなか大変でした。行政の仕事に慣れていなくて難しい案件もあり、自分の中で様々な葛藤があり辛いことも多かったんです。そんな時、慕っていた上司がよく「明けな夜はないんだから」とニコニコしながらお話をされ、私も見習い、辛いことも前を向いて取り組むようにしていました。すると、不思議なもので、なんとか乗り越えられることが多くありました。

また、山歩きもいい気分転換になっていましたね。よく行くのは、標高一〇〇〇mくらいの鈴鹿の山です。登っていると無になれるので、仕事での様々なことも忘れられるのがいいです。中学・高校時代の同級生に誘われて始めましたが、最初は全然乗り気ではなくて(笑)。初めて鈴鹿の鎌ヶ岳に登った時は、「疲れた」が先に来て、途中「来なければよかった」とさえ思いました(笑)。それが頂上に立った時、「こんな世界があるんだ!」つて、爽快感とともにものすごく感動しました。まず頂上に立つということがないですからね。何度断つても誘ってくれた友人のおかげで、楽しみが一つ増えて感謝です。

現在は学校に戻り、生徒と挨拶を交わし

たり、部活動に励む声などを聞きながら、毎日生徒から元気をもらっています。元氣パワーももちろんですが、生徒から学ぶことや得るものはたくさんあります。最近も、上級生と新入生の対面式で、上級生が「世間一般では、二兎追うものは一兎も得ず」と言われますが、皆さんには二兎も、三兎も、四兎も追ってほしい」と挨拶をしたんです。「なるほどな」と思いました。確かに、生徒はいろいろな可能性を秘めているので、一つに絞らず、興味のあることにどんどんチャレンジしていくことは大切なことだなど。例え失敗したとしても、自分に向いていなかったと感じ取るだけでもいいんです。そこまでの経験は、他の道を進む時の糧となり、決して無駄になることはないですから。

アプローチの仕方も、決して皆と同じでなくても、「自分はこうやってみるんだ!」というのでもいい。目標に向かってどうしていくの自分にとって一番いいのかを考え、進んでいくことが大切だと思います。同じスター



トとゴールであっても、アプローチの仕方は人それぞれですから。若い頃によく生徒に伝えていた好きな言葉に、「意志あれば道あり」があります。まさにその通りで、すべてが成功するわけではありませんが、一つ気持ちをもって進んでいけば道は開け、得るべきものは必ずあると思います。

これまでの学校教育は、教員が生徒を教えるという、極端に言えば生徒は教員の言われるままに学ぶ環境であったか

もしれません。しかし今は、「生徒を育てる」ではなく、「生徒が育つ」というスタンスに大きく変えていく必要があると思います。実際、タブレットの導入などにより、生徒が自分自身で自然に学べる環境になってきています。教員は、生徒の自主性をどう養い、関

わっていくのか。私たち教員も、時代にあつた指導方法を考え

ていかなければいけないと思います。定年まであと数年ですが、生徒達の素晴らしいさに触れながら、楽しく教員生活を過ごしていきたいと思っています。――談――

「観賞をしていると眠くなるという人がいますが、それはいいことなんですよ(笑)。音楽が体にスーッと入ってきて、心地よくなっ

「神社などで演奏するイメージが強いですが、昔は宴会の席でもよく演奏されていて、酒が

がつく曲名が多かったりします」

特に平安時代に作られた曲は、今様と呼ばれ、現代のポップスのような感じで庶民にも広く親しまれていたらと、藤井さん。



「雅楽は決して敷居の高いものではないので、身近な日本の音楽として楽しんでほしい。聴くもよし、奏するもよし。日本の心を大切にしながら雅楽を広め、もっと多くの方々と一緒に心地よい時間を共有していきたい」と、最後に語ってくれた。

「和楽器や日本の伝統音楽に興味はあるけど、どこで？という方が多いと思います。そういう方々が気軽に触れられ、始められる場をつくっていききたいです。そして、一人でも多くの方に雅楽を知ってもらいたいです」と、『雅楽 龍鳴会』の水谷幸一さんと藤井芙羅さん。現在一三名のメンバーとともに、雅楽を広めるために、お祭りや祭祀での演奏をはじめ、演奏会や体験会など幅広い活動を行っている。

ている状態ですから」

そんな心地よさを生み出しているのが、音色であり、間合いだという水谷さん。規則的に一、二、三、四とテンポが刻まれるのではなく、一、二、少し間があつて三、四、というように、自然に落ちる拍があるという。この自然に落ちる拍、間合いがつくる独特のゆつたりとした流れが、日本人の感覚にあっているのだろう。

演奏や観賞はもちろんだが、他にもいろいろな楽しみ方がある。例えば言葉。打ち合わせ、塩梅、野暮など今でも普通に使っている言葉は、古から使われている雅楽用語が基となっている。楽曲や楽譜を通して、その時代や曲が生まれた背景や言葉遣いなどを知ることもおもしろく、日本文化の世界がどんどん広がっていく。



奥ゆかしくて美しい——。日本の心を感じられる伝統音楽。

神社仏閣での祭典奏楽の奉仕、雅楽の演奏活動
雅楽 龍鳴会
 第28回助成(団体)

2009年設立。メンバーは未経験から始める人もおり、主婦や会社員、学生など様々。月2回以上の稽古を行い、宮内庁楽師の先生による指導を年に数回受けている。神社仏閣の祭典奏楽の奉仕をはじめ、結婚式やお祭り・イベント・学校などで演奏会や体験会を実施。「楽器を吹いてみたい、演奏を聴いてみたいなど少しでも興味をもたれたら、気軽にご連絡ください。どのような形でも対応できます」と、これまで以上に幅広い活動を目指している。

藤井芙羅さん

水谷幸一さん



スペイン語を専攻していた学生時代に、スペインのガルシア・ロルカとフェルナンド・アラバルの戯曲に魅了された、深澤伸友さん。二〇〇八年に「PAP(パフォーミング・アーツプロジェクト)・でらしね」を立ち上げ、日本ではあまり上演されていない中南米の戯曲や小説、英国のハロルド・ピントアの戯曲などを企画からキャスティング・台本・演出を手掛け、上演している。

深澤さんが取り上げる作品は、起承転結のあるリアリズム劇では描き切れない、時代背景や人間の悩みなどを様々な視点から描いた不条理劇だ。

「不条理劇は、政治や社会的背景に作家の人生観みたいなものが加わり、戯曲全体が一つの詩のように表現されています。視点を交えるだけで、いろいろな見方やセリフの捉え方ができるところが魅力ですね」

様々な解釈ができるからこそ、俳優やスタッフと議論することが、何よりも大切であり、おもしろいという。深澤さんが創り出す舞台は、台本を手をセリフを語るリーディング・シアターというスタイル。俳優のちよつとした指の動きなども観られる小劇



「フリゴ、もしくは…冷蔵庫」

場という利点を活かし、作家の幻想を絵画のような美しさで表現していく。

最新作は、本邦初上演の『フリゴ、もしくは…冷蔵庫』(西村和泉訳・二〇二二年上演)。アルゼンチンからフランスへ渡り、一九六〇年代からパリで活躍した作家コピの作品で、誕生日に母親からフリゴ(仏語で冷蔵庫の意)をプレゼントされて戸惑う主人公の話だ。

「フリゴ(一九八三年)もそうですが、上演作品は一九八〇年代から現在までのものが多く、十人十色の解釈ができる、わからないものが多いです(笑)。ただ、「わからない、難しそう」と拒絶的になるのではなく、「これはなんだ？」という好奇心でもって触れてもらえると、うれし



「死とおとめ、もしくは…もうひとつの9.11」



わからないことが、おもしろい! 不条理劇という不可思議な世界。

中南米の演劇・英国のハロルド・ピントアの戯曲などを翻訳・演出
深澤伸友さん
 第32回助成(個人)

演劇は、Here and now——。限られた同じ空間・時間にいる俳優や観客とともに創り上げるものであり、そこで生まれるエネルギーはとても熱いものがあるという深澤さん。これまでの演出作品には、「蜘蛛女のキス(マヌエル・プイグ作)」「死とおとめ、もしくは…もうひとつの9.11(A・ドルフマン作)」「家族の声、もしくは…(ハロルド・ピントア作)」など多数ある。2022年10月には、「フリゴ、もしくは…冷蔵庫」を再演予定。



2021年 11月

● 深澤伸友さん(戯曲の翻訳・演出など) 第32回助成・個人
リーディングシアター らっ・たいと 名芸大ライアウト公演「フグ、もしくは…冷蔵庫」台本・演出[名古屋芸術大学、中アンサンブル室(北名古屋市)]

2021年 12月

● 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
～演劇フェスティバル イン ちりゅう～に参加「新美南吉お話の世界 ランプの夜」[知立市文化会館 花しょうぶホール(知立市)]
～令和3年度竜神交流館講座「The Garden Ryuujin」～「オルガニートと新美南吉のお話の世界」[竜神交流館(豊田市)]

● 古井戸芳生さん(現代美術) 第12回助成・個人
古井戸芳生展「新」表現の樹木
[志賀高原原口マン美術館(長野県下高井郡山ノ内町)]

● 英語珠算研究会(英語珠算の研究・練習会等) 第32回助成・団体
「英語珠算競技大会」開催(大原簿記情報医療専門学校(名古屋市中村区))

2022年 1月

● 第8回日展名古屋展(愛知県美術館ギャラリー(名古屋市中区))
新野素子さん(染色) 第2回助成・個人 「明けぐれに浮かびくる(染)」
大橋敏彦さん(金工) 第3回助成・個人 「早春の詩(鍛金)」
掘龍太郎さん(彫刻) 第11回助成・個人 「待て(彫塑)」

● 掘龍太郎さん(彫刻) 第11回助成・個人
日展セクション展「未来への伝言(彫塑)」[松坂屋名古屋店美術画廊(名古屋市中区)]
第10回爽創会彫刻展「いびい 伊藤昌義氏像(彫塑)」[アトスペースG(名古屋市中区)]

● 斉と公平太さん(美術制作) 第31回助成・個人
2021年度第3期 愛知県美術館コレクション展「令和3年度新収蔵作品展」インスタレーション「ARTくん」[愛知県美術館(名古屋市中区)]

● 神村泰代さん(アート作品制作) 第31回助成・個人
「書庫と〇〇」新春企画「書庫と羊木」[Re-TAIL「書庫と〇〇」(一宮市)]

2022年 2月

● 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
ゆめばれット～10周年記念事業～「生きづらさを抱えて活動したからこそ分かった大切なこと」とよた市民活動センターホール(豊田市)

● 食アレスマイルネット(食物アレルギーの啓発活動) 第31回助成・団体
思いやりの心育も読み聞かせ会(第3回)絵本で知る食物アレルギー [額田こもれび館集会所(岡崎市)]

● 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
コンチェルト シリーズ第2回 ～複数の独奏楽器群による協奏曲～ [愛知県芸術コンサートホール(名古屋市中区)]

● 上山明子さん(彫刻) 第27回助成・個人
個展開催「Origin -はじまりと終わりの-」[エスプラナードギャラリー(名古屋市中区)]

● 古井戸芳生さん(現代美術) 第12回助成・個人
木内万宇追悼展 国際アートフェスティバルに出展(ギャラリー成瀬17(東京都町田市))

2022年 3月

● 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
ゆめばれット～10周年記念事業～「発達障がいとボードゲームのステキな関係」[とよた市民活動センターホール(豊田市)]

● 食アレスマイルネット(食物アレルギーの啓発活動) 第31回助成・団体
思いやりの心育も読み聞かせ会(第4回)絵本で知る食物アレルギー [リブラ会議室(岡崎市)]

● 劇団名芸 第30回助成・団体
「二十二夜待ち」[劇団名芸アトリエ(名古屋市中区)]

● 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
第30回定期演奏会「ブルームス・ツィクルス」最終回 原田慶太楼×愛知室内オーケストラ(三井住友友利ホール(名古屋市中区))

仲間達の近況メモ

● 中條直人さん(美術作品の制作) 第19回助成・個人
個展開催「子どもたちのために一変身」[Gallery HAM(名古屋市中区)]

● 菅野泰史さん(現代美術) 第15回助成・個人
個展開催「海のトレース」[TOKI Art Space(東京都渋谷区)]

● NPO 法人フードツーリズム研究所(歴史文化の継承と新しい食文化の創造) 第32回助成・団体
講演会「フードツーリズム研究所がご案内する 第一部「街道観光の魅力探求」 第二部「郷土食とよた五平餅」[名古屋市民会館 第7集会室(名古屋市中区)]

2022年 4月

● 西村一成さん(絵画制作) 第20回助成・個人
西村一成 新作展「Dear Dr.Naumann 急啓ナウマン博士殿」[ギャラリー宮脇(京都市)]
展覧会「線のしぐさ Gesture of Lines」に出展(東京都渋谷公園通りギャラリー(東京都))

● 中谷ゆうこさん(美術作品の制作) 第25回助成・個人
中谷 ゆうこ展「くまのてざわり」[ハートフィールドギャラリー(名古屋市中区)]

● 書籍・会報誌等の発行
● 小牧市文芸協会 第2回助成・団体
12～4月…郷土文芸誌「駒来」第599～603号発行

● まつり同好会 第25回助成・団体
12月…まつり83号「特集 愛知の信仰と芸能」発行
1・3月…「まつり通信」617・618号発行

● 江南郷土史研究会 第3回助成・団体
1～4月…「江南郷土史研究会会報」515～518号発行

● はんだ郷土史研究会 第19回助成・団体
1・3月…「はんだ郷土史だより」第100・101号発行

● 野田史料館 第1回助成・団体
1月…「野田史料館報」第162号発行

● 春日井郷土史研究会 第15回助成・団体
1月…「春日井郷土史」第7号発行

● 名古屋郷土文化会 第7回助成・団体
2月…「郷土文化」第76巻第2号発行

● 守山郷土史研究会 第1回助成・団体
3月…「もりやま」第41号発行

● 東谷山湿地群保全の会 第32回助成・団体
3月…「十周年記念誌」発刊

● 長久手市郷土史研究会 第13回助成・団体
3月…「胡牀石」第59号発行

● 英語珠算研究会 第32回助成・団体
3月…「英語珠算研究会25周年記念誌」発行

● 愛知歴史研究会 第7回助成・団体
4月…「あいち歴史会誌」第174号発行

● 八事・杵中歴史研究会 第26回助成・団体
4月…「続 八事・杵中歴史散歩」出版

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

表紙作品 「rolling star」縦42cm×横32cm 銅版画(エッチング) 森田朋さん作(第32回助成)



● 作者の言葉
エッチングの細い線で画面の中を視線がぐるぐると巡らしてもらいたいような絵を描きたいと思っています。持っているのは、形が自在に変わる針金のおもちゃです。変わっていないつもりで、変化し続ける人を描きました。

豊橋南高校写真部のスローガンは、
「everyone makes happy」。目指しているのは、撮られる人も撮る人も一緒に楽しめる、みんなが幸せになれる写真だ。
取材で伺った日、学校紹介の宣材写真の撮影が行われていた。部長の小野田莉愛さんを中心に部員達が、モデルとなる生徒達に立ち位置やポーズなどを指示する声飛び交い、笑い声が響き渡る。ほどよい緊張感の中で、実に楽しそうに撮影は進められていた。
「数年前から、学校行事でも撮影させていただいています。生徒同士だからこそ引き出せる表情があるなと感じています」と、顧問の石田桂子先生。写真部が撮る写真は、創作芸術術であると言う。例えば、笑顔があるから撮るのではなく、その笑顔をどう撮るのか。良いものをつくるという意識で、自分の表現したいものを、伝えたいことに合わせてシャッターを切ること、写真部として撮影する意義があることを教えてくれた。
写真甲子園(全国高等学校写真選手権大会)や全国高等学校総合文化祭で受賞した作品もそうだが、部員の撮る写真はどれも



も魅力的だ。発想の面白さはもちろん、高校生の今しか表現できないようなあふれる思いやエネルギーが、写真から伝わってくる。そんな部員達の作品は、地域の図書館で展示されたり、新聞などでも紹介されている。
「地域の皆さんに高校生の活躍をご覧いただけるのは、うれしいことです。また、多くの方に評価されることで、部員達の意欲も高まっているようです」と、山脇正成校長先生。展示だけでなく、地域図書館や建設現場など校外で撮影する機会もあり、地域と連携した活動も実施。写真を通して様々な世代の人と関わることで、豊かな人間性が育まれていく。
「イベントの裏方や職場など、普通では入れないような場所を体験できることは、写真部ならではの楽しみの一つです。一枚一枚を大切にしながら、私にしか表現できない写真を撮っていきなさい」と言う小野田さんは、写真を楽しむだけでなく先輩達の姿勢をしっかりと受け継いでいきたいと話してくれた。部員達は今、写真甲子園を目指して、みんなに喜んでもらえるような一枚を撮り続けている。



「俺が太陽」 第40回全国総文祭 朝日新聞社賞



「タワー」 写真甲子園2018美瑛町長賞



高校生の今だからこそ撮れる、みんなが幸せになれる写真を目指して。

写真部 愛知県立豊橋南高等学校 第30回援助(高校生)

現在27名の部員が活動中。好きなテーマを一眼レフで撮影し、写真の加工をしないことが基本。顧問の石田桂子先生が指導で心掛けているのは、「コンテストに出品したい」「好きなものを撮影して自由に発表したい」など部員一人ひとりの気持ちを伸ばしていくこと。2016年に第40回全国高等学校総合文化祭にて朝日新聞社賞を受賞、2018年に第25回全国高等学校写真選手権大会(写真甲子園2018)で全国4位に相当する美瑛町長賞を受賞している。

部長の小野田莉愛さん



校長の山脇正成先生



顧問の石田桂子先生



第33回 (令和4年度)

助成対象者募集

募集期間 5月16日(月)～6月30日(木)

募集要項

一般助成

●対象

愛知県内を基盤に、教育及び文化活動の維持発展に努力し、地道に、継続的、独創的な活動を行っている個人又は団体で、次の条件を満たすものとします。

①行政機関(国又は地方公共団体)から助成を受けていないこと。

※助成が反復・継続ではない場合、助成金額が少額の場合はこの限りではありません。

②営利を目的としないこと。

(注)「教育活動」とは社会教育活動(スポーツを含む)を主体とします。「文化活動」とは音楽、演劇、舞踊、伝統芸能、美術、工芸、文芸、郷土史研究等の分野とします。

●応募または推薦

原則として、個人又は団体からの直接申請としますが、第三者からの推薦申請も認めます。

●助成金の額及び件数

個人に対し、助成金は1件につき30万円を8名以内。団体は1件につき40万円を10団体以内。

●助成金給付の決定及び通知

給付の決定は選考委員会の選考審査を経て、理事長が決定します。結果は書面にて申請者に通知します。

●助成金給付の時期

助成金は決定通知後、1ヶ月以内に給付します。

●申請方法

◇申請用紙は財団事務局または最寄りの愛知銀行窓口にお尋ねください。ホームページからもダウンロードできます。

◇所定の申請書に記入のうえ、5月16日(月)から6月30日(木)までに当財団へ提出してください。ただし郵送の場合は、当日の消印まで有効とします。

高校生への援助

●対象

愛知県内の高等学校における文化及び体育活動。

●援助金の額および件数

援助金は文化活動が30万円単位、体育活動が50万円単位で、各150万円以内。

●申請方法

「文化活動」においては愛知県高等学校文化連盟、「体育活動」においては愛知県高等学校体育連盟の会長推薦が必要です。

※その他、募集期間等については一般助成と同様です。

※応募の際の申請書並びに添付資料はご返却いたしませんのでご了承願います。

※応募された方の個人情報につきましては、当財団事業にて使用させていただき、当財団の個人情報保護方針に基づき適正に管理します。

お問い合わせ先

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号(愛知銀行本店内)

公益財団法人 愛銀教育文化財団 事務局

☎(052)262-9601 ダイヤルイン

<https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/>



あゆち第92号 ● 2022年5月

発行:公益財団法人 愛銀教育文化財団
〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号
愛知銀行本店内 ☎(052)251-3211(代)
<https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/>

